



子どもの読書活動優秀実践校 文部科学大臣表彰受賞

子供の読書活動で優れた実践

本県3団体大臣表彰

2020年度の「子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）」に対する文部科学大臣表彰に、本県から東根市小田島小、鶴岡中央高、読み聞かせサークルめたせこいや（最上町）の3団体が選ばれた。例年と異なり、新型コロナウイルス

による感染拡大防止のため、表彰式は中止となった。

小田島小では、地域の団体による読み聞かせを年間を通して実施。国語の教科書に掲載された作者のほかの作品を読むなど、児童の興味に沿った読書活動を進めている。「読書の秋」に合

わせて親子読書を行っているほか、就学時検診の際に市図書館のスタッフが保護者に読み聞かせの仕方をアドバイスするなど、児童と保護者に読書の楽しさを感じてもらおう取り組みを進めている。

鶴岡中央高では生徒が主体となり、利用しやすい図書館づくりに取り組んでいた。授業の一環で、総合学科美術デザイン系列の生徒

が空間デザインを担当。本棚の配置を工夫し、授業で活用するスペースを確保したほか、ピクトグラムを用いた案内標識を新たに作成し、資料が探しやすくなるよう工夫した。年間約200時間使用されるなど、各教科での課題学習を後押し。学習センター、通称「学セン」の愛称で親しまれ、教職員や生徒に日常的に利用される施設となっている。

読み聞かせサークルめたせこいや（明白 三江代表）は2003年に設立。町民を中心に16人が所属し、同町向町小を中心に活動している。昨年度は同小に週1回訪問し、各クラスにメンバー1人を派遣し読み聞かせを実施。中学校でも読み聞かせを実施している。また、高校生ボランティアサークルと協力したイベント開催や、乳児健診の際に読み聞かせを行うブックスタート事業などを行い、読書の楽しさを伝えている。

（小林達也、川口御生、齋藤吉貴）